

# 佐賀関地区

## 1. まちづくりの目標

### 「自然と人がうるおう ふれあい空間の形成」



本地区は、瀬戸内海国立公園や日豊海岸国定公園に代表される自然と、全国ブランド『関あじ・関さば』に代表される海の幸などが享受できます。

また、東九州地域と四国を結ぶ海上交通の要衝に位置することから、中心市街地や他の拠点地区との連携を密にするため、アクセスも含めた交通結節機能を強化すべき地区となっています。

将来的には、豊かな自然環境と調和した都市近郊住宅地域として、さらに地域資源を活用したより魅力ある観光拠点としての役割が期待されている地区です。

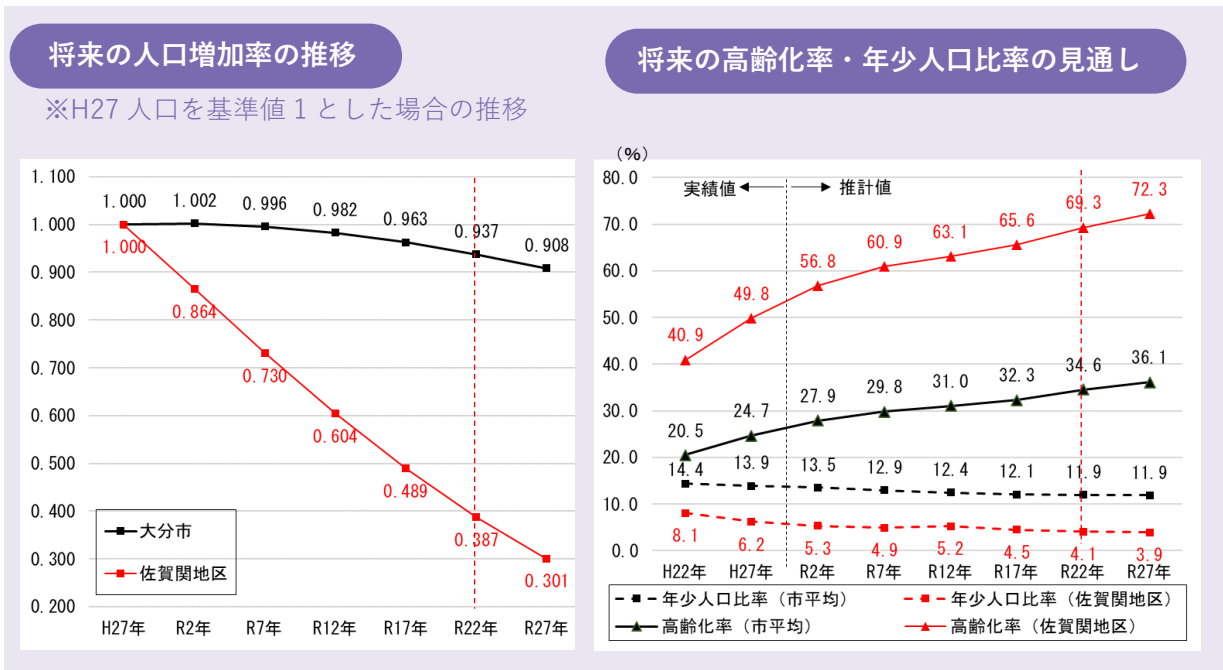
このようなことから本地区は、「自然と人がうるおう ふれあい空間の形成」をまちづくりの目標とします。

### 佐賀関地区の将来都市構造図



## 2. 地区の現況

- ・瀬戸内海国立公園のうみねこの営巣地で知られる「高島」や日豊海岸国立公園の風光明媚なりアス式海岸などの恵まれた自然と全国ブランドとなった「関あじ・関さば」などをはじめとする、地域の特産物や独特の地域文化がはぐくまれてきました。
- ・人口は減少傾向にあり、平成 27 年から令和 22 年までの間に 4 割弱の人口が減少する見通しです。
- ・人口構成についても少子高齢化が急速に進んでおり、平成 27 年の実績値をみると地区住民の約 5 割が高齢者となっており、本市全体の高齢化率と比べても、約 2 倍と高水準です。この傾向が続けば、令和 22 年には人口の約 7 割が高齢者となる見通しです。一方、年少人口比率をみると平成 27 年には人口の 1 割未満となっており、令和 22 年まで、この傾向が続く見通しです。

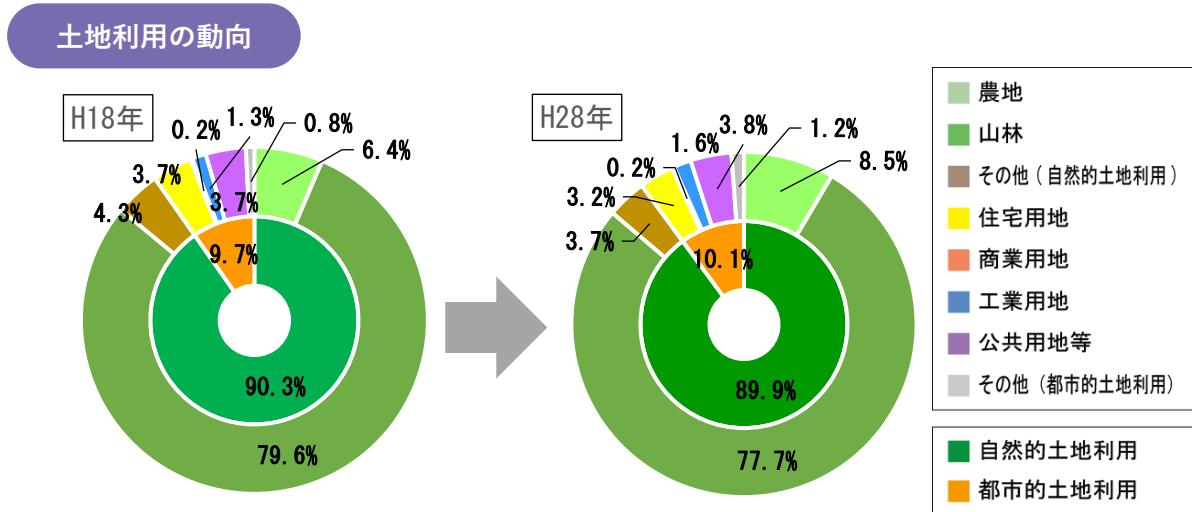


※推計値は、「大分市人口ビジョン」に示す「地域別の人口推移」を基に作成

※この推計は、2010年から2015年までの5年間の人口変動が将来にわたって続くと仮定し計算したものであるため、2016年以降に人口変動に大きな影響を及ぼす要因が発生した場合、将来人口推計が大きく変化する可能性があります。

### 第3章 地区別構想

- ・土地利用の現況については、地区面積 4,939ha で宅地や道路などの都市的土地利用面積は 10.1%、山林などの自然的土地利用面積が 89.9%となっており、地区の大部分は自然的土地利用となっています。



- ・主要な交通体系としては、国道 197 号、217 号や JR 日豊本線、国道九四フェリーなどにより構成されています。
- ・国道 197 号、217 号は都市内連携軸に位置付けられますが、東九州自動車道大分 IC 及び大分宮河内 IC から佐賀関港を介して四国方面への連絡を担うなど、広域的にも重要な役割を果たしています。
- ・佐賀関地区の一部と本神崎地区周辺には準都市計画区域が指定されています。
- ・市街化及び開発の動向については、昭和 60 年には約 90ha ほどあった人口集中地区が人口減少とともに縮小し、平成 12 年国勢調査以降では人口集中地区はなくなっています。また、近年では新たな大規模宅地開発なども見られず、面整備事業なども行われていません。



海峡の紫陽花（出典：おおいたきれい百選）

## 3. まちづくりの課題

## 1 | 土地利用・市街地整備

- ・佐賀関市民センター周辺では、地区の生活利便性の維持に向けて、公共公益施設の集積を維持していくことが必要です。
- ・佐賀関地区中心部の建物の密集した地区や浦々の農漁村地区においては、狭あい道路や土砂災害警戒区域等が存在することから、防災性の向上を図る必要があります。
- ・JR 幸崎駅及び周辺において、本地区の玄関口にふさわしい機能集積が必要です。
- ・JR 幸崎駅周辺の本神崎、馬場地区において農地の宅地化が進展しており、今後、無秩序な市街化により自然環境や優良な農地が蚕食されないように計画的な土地利用の誘導を図る必要があります。
- ・大志生木小学校等の施設跡地の効果的な利活用の継続が必要です。
- ・既存集落においては、人口減少による地域コミュニティの希薄化が懸念されます。

## 2 | 交通施設

- ・本地区と中心市街地及び臼杵方面を結ぶ主要な幹線である国道 197 号には、一部未改良区間が見られ、道路や歩道の整備・改善が必要です。
- ・中心市街地から本地区の国道九四フェリーターミナルへ至る、九州・四国間の連携を担うルートの交通円滑化や耐災害性強化などが必要です。
- ・本市と四国・関西方面を結ぶ広域ルートの整備が求められています。
- ・関崎灯台や関崎海星館といった本地区を代表する観光拠点へのアクセスルートとなる県道佐賀関循環線は、一部に道路幅員が狭あいな区間が残っており、車同士のすれ違いに困難を来しているため、改善が必要です。
- ・志生木や木佐上地区など、市道の改良が進んでいない区間があり、幅員が狭あいで草木の繁茂によって通行が困難な区間が生じています。
- ・佐賀関地区の中心部では、自動車・二輪車・自転車の進入が困難な斜面地の建物の密集した市街地が形成されています。
- ・JR 幸崎駅において、駅前広場の整備など交通結節機能の強化と駅の利便性の向上が必要です。
- ・国道九四フェリーターミナルにおいて、海の玄関口にふさわしい交通結節機能の強化が必要です。
- ・軽便鉄道跡地などを利用したサイクリングロードの整備が求められています。
- ・少子高齢化の進展等に備え、交通弱者の移動の利便性や安全性を向上させる必要があります。

## 第3章 地区別構想

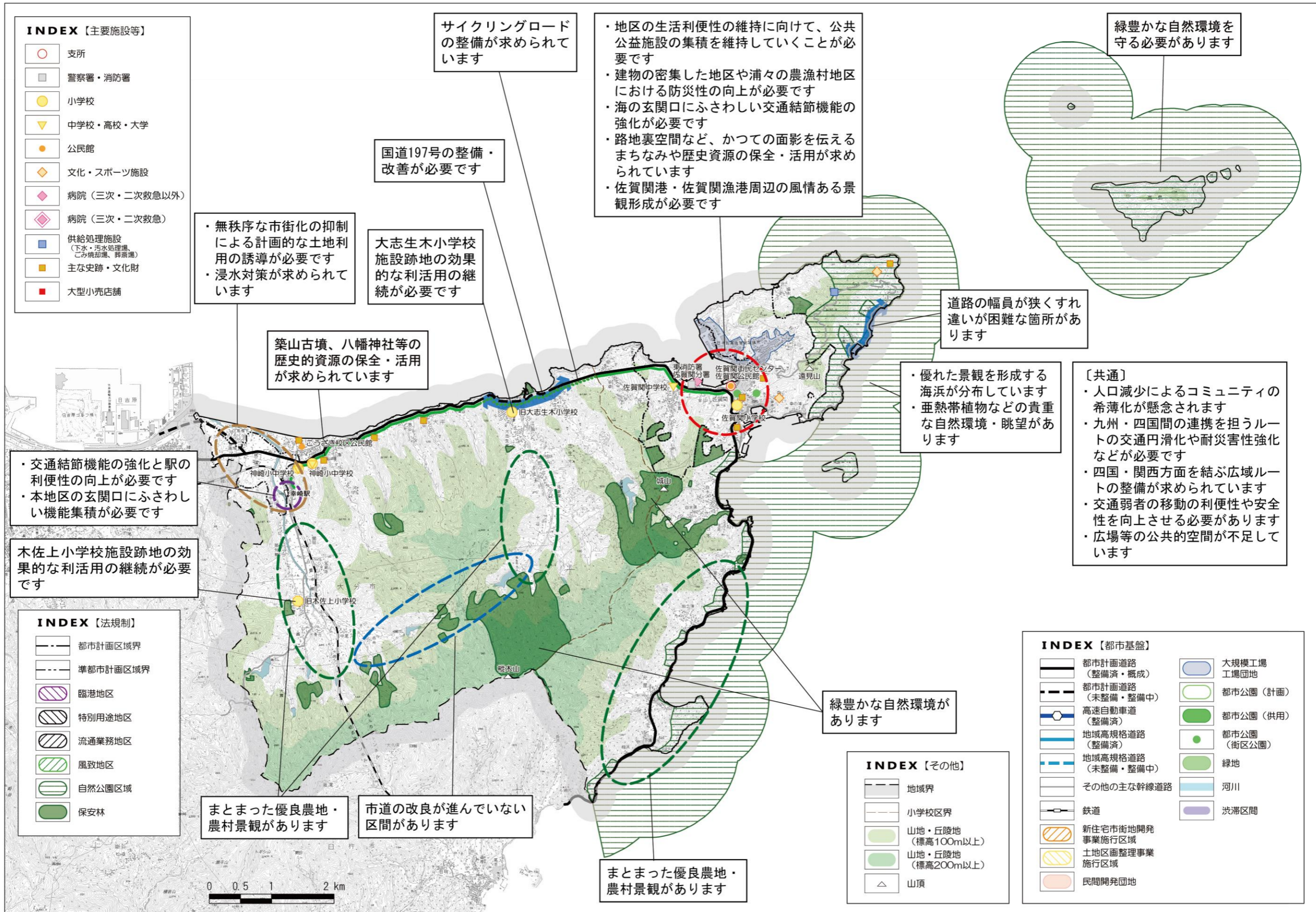
### 3 | 環境・景観

- ・日豊海岸国定公園や小猫川、志生木川の周辺等に拡がる優良な農地をはじめとする豊かな自然環境の保全と活用が求められています。
- ・瀬戸内海国立公園（高島）や縦木山脈などの本地区内の緑豊かな自然環境の保全が求められています。
- ・佐賀関地区の中心部における路地裏空間などにおいては、かつての面影を伝えるまちなみや歴史資源の保全・活用が求められています。
- ・本神崎地区の歴史的風致を形づくっている築山古墳、八幡神社等の保全・活用が求められています。
- ・地区の人々が集い、憩うことのできる身近な広場等の公共的空間が不足しています。
- ・佐賀関港・佐賀関漁港周辺では、漁港と集落、遠景の山の緑が織りなす風情ある景観の保全・形成が必要です。

### 4 | その他

- ・馬場地区の浸水対策が求められています。

佐賀関地区の現況及び課題



序章 都市計画マスタープランとは

第1章 都市づくりの目標

第2章 全体構想

第3章 地区別構想 佐賀関地区

第4章 計画の実現に向けて

## 4. まちづくりの方針

## 1 | 土地利用・市街地整備

- ・佐賀関地区を中心に佐賀関市民センターや地区公民館などの行政サービス施設やコミュニティ施設、商業・業務施設を集積し、生活圏の中心となる地区拠点の形成を図ります。
- ・佐賀関地区中心部の建物の密集した地区においては、防災性の向上を図るとともに良好な住環境の形成を図ります。
- ・JR 幸崎駅及び周辺においては、本地区の玄関口にふさわしい都市機能の集積を図ります。
- ・本神崎地区では、JR 幸崎駅周辺において必要な生活利便施設の誘導を図るとともに、海辺の豊かな自然環境に恵まれた集落地の維持、無秩序な市街地拡大の抑制に配慮した土地利用を図ります。
- ・大志生木小学校等の施設跡地については、地域活性化を図るための活用を推進します。
- ・優良な農地の保全に努めつつ、人口減少の著しい既存集落については地域コミュニティの維持・活性化を図ります。



佐賀関漁港と集落

## 2 | 交通施設

- ・佐賀関港や関崎半島などへの物流・観光面の主要なルートである国道 197 号は、外部からの来訪者も多いことを踏まえ、十分な幅員の確保や円滑な交通流動の確保、災害対策に努めるとともに、道の駅などを活用し、沿線地域の活性化に向けた取組を進めます。
- ・都市内連携強化のため、臨港道路細・馬場線の東部延伸を促進します。
- ・本市と四国・関西方面を結ぶ豊予海峡ルート（豊後伊予連絡道路、四国新幹線）の整備実現に向けて、国や九州・四国各県、関係機関などと連携して事業の推進を図ります。
- ・関崎灯台や関崎海星館へのアクセスルートである県道佐賀関循環線については、円滑な観光周遊ルートの形成に向け、狭あいな道路の整備・改良を促進します。
- ・地区内集落の生活利便性及び災害時の安全性の確保のため、東西に横断する国道 197 号及び国道 217 号に接続する道路の整備・改良に向けた取組を進めます。

## 第3章 地区別構想

- ・山間部を横断する市道については、円滑な道路機能を維持します。
- ・佐賀関地区の中心部における斜面地など建物の密集した市街地においては、利便性や安全性向上のため必要な道路整備等を推進します。
- ・JR 幸崎駅や国道九四フェリーターミナルについては、交通結節機能の強化を図ります。
- ・軽便鉄道跡地などを利用したサイクリングロードの整備を推進します。
- ・歩道などのバリアフリー化を推進します。
- ・公共交通の充実に向けて関係機関にはたらきかけます。

### 3 | 環境・景観

- ・日豊海岸国定公園の特徴的な海岸線の眺望など良好な眺望・景観の保全を図るとともに、斜面地の災害防止に努めます。
- ・大志生木、木佐上や一尺屋地区などに広がる優良な農地の保全を図ります。
- ・瀬戸内海国立公園（高島）の自然環境の保全を図ります。
- ・地区の骨格を形成し、水源かん養の役割を果たす山林を有する縦木山脈などの自然環境の保全を図ります。
- ・佐賀関地区の中心部における路地裏空間などは、街区の防災性・安全性の確保とのバランスを取りながら、地域の魅力や歴史性を象徴する空間として活用を図ります。
- ・早吸日女神社などの歴史的風土・良好な樹林地保全を図ります。
- ・本神崎地区では、築山古墳、八幡神社等の歴史的資源の保全・活用を図ります。
- ・地区の人々が集い、憩うことのできる身近な広場等の公共的空間の充実を図ります。
- ・佐賀関港・佐賀関漁港周辺地区においては、漁港と集落、遠景の山の緑が織りなす風情ある景観の形成・保全を図ります。



国定公園 日豊海岸（出典：おおいたきれい百選）



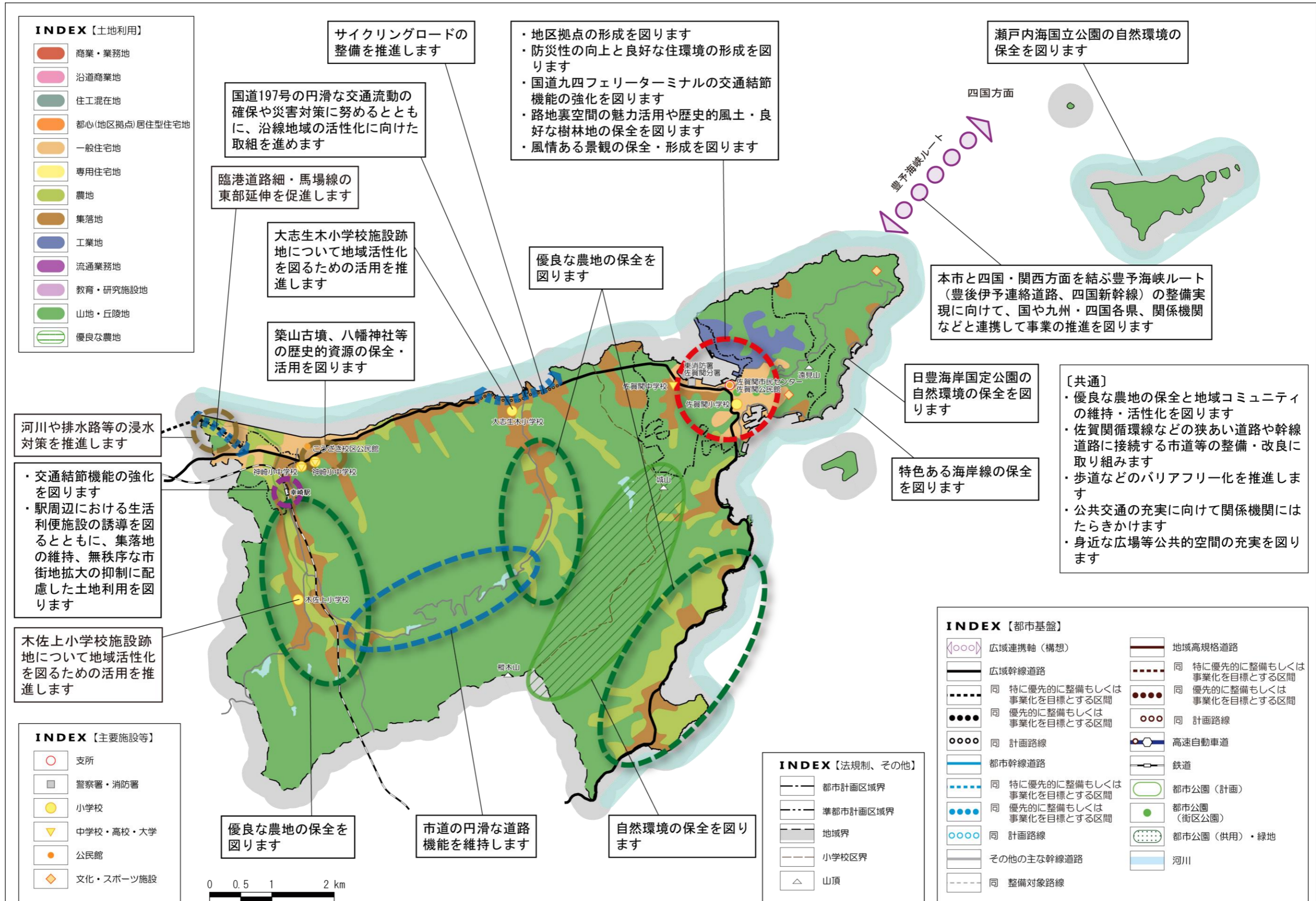
早吸日女神社（出典：おおいたきれい百選）

### 4 | その他

- ・馬場地区において、河川や排水路等の浸水対策を推進します。



佐賀関地区のまちづくりの方針図



**INDEX【土地利用】**

- 商業・業務地
- 沿道商業地
- 住工混在地
- 都心(地区拠点)居住型住宅地
- 一般住宅地
- 専用住宅地
- 農地
- 集落地
- 工業地
- 流通業務地
- 教育・研究施設地
- 山地・丘陵地
- 優良な農地

河川や排水路等の浸水対策を推進します

・交通結節機能の強化を図ります  
・駅周辺における生活利便施設の誘導を図るとともに、集落地の維持、無秩序な市街地拡大の抑制に配慮した土地利用を図ります

木佐上小学校施設跡地について地域活性化を図るための活用を推進します

**INDEX【主要施設等】**

- 支所
- 警察署・消防署
- 小学校
- 中学校・高校・大学
- 公民館
- 文化・スポーツ施設

サイクリングロードの整備を推進します

国道197号の円滑な交通流動の確保や災害対策に努めるとともに、沿線地域の活性化に向けた取組を進めます

臨港道路細・馬場線の東部延伸を促進します

大志生木小学校施設跡地について地域活性化を図るための活用を推進します

築山古墳、八幡神社等の歴史的資源の保全・活用を図ります

優良な農地の保全を図ります

・地区拠点の形成を図ります  
・防災性の向上と良好な住環境の形成を図ります  
・国道九四フェリーターミナルの交通結節機能の強化を図ります  
・路地裏空間の魅力活用や歴史的風土・良好な樹林地の保全を図ります  
・風情ある景観の保全・形成を図ります

優良な農地の保全を図ります

市道の円滑な道路機能を維持します

自然環境の保全を図ります

**INDEX【法規制、その他】**

- 都市計画区域界
- 準都市計画区域界
- 地域界
- 小学校区界
- 山頂

**INDEX【都市基盤】**

- 広域連携軸(構想)
- 広域幹線道路
- 同 特に優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間
- 同 優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間
- 同 計画路線
- 同 計画路線
- 都市幹線道路
- 同 特に優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間
- 同 優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間
- 同 計画路線
- その他の主な幹線道路
- 同 整備対象路線
- 地域高規格道路
- 同 特に優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間
- 同 優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間
- 同 計画路線
- 高速自動車道
- 鉄道
- 都市公園(計画)
- 都市公園(街区公園)
- 都市公園(供用)・緑地
- 河川

瀬戸内海国立公園の自然環境の保全を図ります

本市と四国・関西方面を結ぶ豊予海峡ルート(豊後伊予連絡道路、四国新幹線)の整備実現に向けて、国や九州・四国各県、関係機関などと連携して事業の推進を図ります

日豊海岸国立公園の自然環境の保全を図ります

特色ある海岸線の保全を図ります

[共通]  
・優良な農地の保全と地域コミュニティの維持・活性化を図ります  
・佐賀関循環線などの狭あい道路や幹線道路に接続する市道等の整備・改良に取り組みます  
・歩道などのバリアフリー化を推進します  
・公共交通の充実に関係機関にはたらきかけます  
・身近な広場等公共空間の充実に図ります

序章 都市計画マスタープランとは

第1章 都市づくりの目標

第2章 全体構想

第3章 地区別構想 佐賀関地区

第4章 計画の実現に向けて